

## 佐賀市立 諸富北小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- |   |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。                      |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

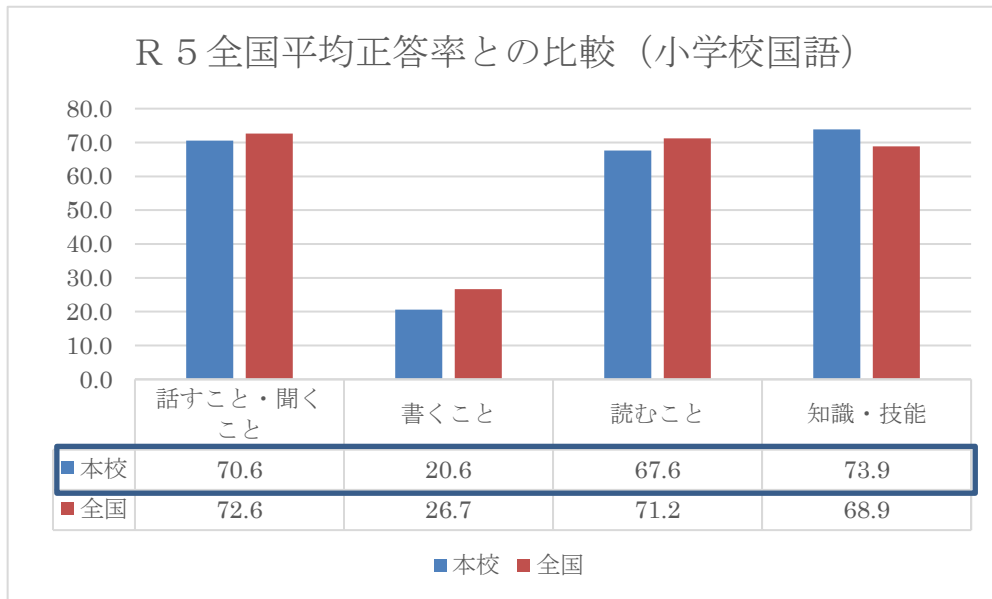
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

4領域のうち「知識・技能」は 0.5 ポイント全国平均正答率を上回りました。一方で、3領域では、「話すこと・聞くこと」で 2.0 ポイント、「書くこと」で 6.1 ポイント、「読むこと」で 3.6 ポイント下回りました。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、全国平均を上回った「知識・技能」は、成果として、普段の授業や宿題で書く機会や言語や語彙に触れる機会を増やし、書き慣れてきたことが効果として表れていると思います。また、言語や語彙については国語科だけでなく、学習全体の根幹になる力であり、普段から漢字や言葉、音読、視写、楽しみながら取り組める掲示物やプリントなどの成果が表れていると考えられます。

課題としては、内容領域の「書くこと」、「読むこと」の正答率を上げることです。児童の記述力を高めることは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

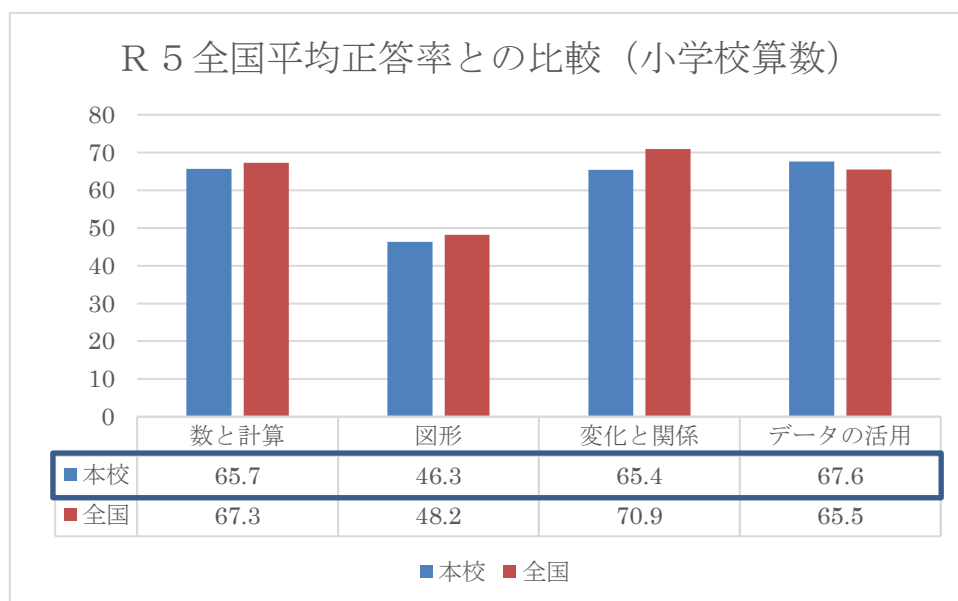
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫します。個人用 PC も積極的に取り入れ、子どもが主体的・対話的で深い学びを実現するために、話し合いや考えの比較などを行います。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させたり、読書を推進させたりして語彙力を増やします。

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。声に出して読むことで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数(数学)



### (1) 結果

どの領域もほぼ全国平均と同等の結果でした。その中で「データの活用」は 1.9 ポイント全国平均正答率を上回り、一方で「数と計算」は 1.6 ポイント、「図形」は 1.9 ポイント、「変化と関係」は 4.5 ポイントと、3領域で全国平均を下回っていました。全体的にもうひとがんばりできる内容と結果だったと感じます。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「データの活用」の領域では全国平均正答率を上回っていました。一方で、「数と計算」、「図形」では、1.6～4.5 ポイント全国平均正答率を下回っていました。観点別では、「知識・技能」を問う問題については、全国平均正答率を上回っており、問題を解くための解き方については定着が見られます。「思考・判断・表現」を問う問題では、全国平均正答率を下回っています。また、手本として示されている説明の文章を参考に同等の問題について、数字や言葉を入れ替えて解法を説明させる問題での誤答が多くありました。例示してあるものを適切に使って回答を導く学習法をもとに書き直すような学習活動に取り組みしていく必要があります。確かな知識・技能・計算力を身に付けるために、普段の授業や宿題等で四則計算や公式活用などの練習を行い、それらを正しく理解し、問題の中で使えるための力が必要で、自分の考えを説明したり書いたり見直したりする力を付けることも重要です。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、問題と生活場面を結び付けたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 児童が主体的に学びに向かうような**授業づくり**を行います。その中で文章を正しく読み取って式を作ったり、絵や図などで表したりして、**自分の考え、解き方を相手に伝える**ことができる力を身に付けさせていきます。その機会を多く設け、しっかりと自分の考えをノートやプリントに書いて**記述力の向上**に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、習ったことが生活の中で使えて、「便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数に書か輪r 思考をくすぐるものがあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	79.4 %	83.7 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.2 %	38.1 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	64.7 %	55.1 %
自分にはよいところがあると思いますか。	38.2 %	42.6 %
将来の夢や目標を持っていますか。	55.9 %	60.8 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	76.5 %	75.3 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	67.6 %	82.6 %

起床・就寝については全国平均を上回っている結果になりました。児童がしっかりと安定した睡眠時間の確保ができていくことになり、規則正しい生活リズムの定着ができていけると言えます。学校でも「早寝・早起き・朝ごはん」という生活リズムの大切さはこれまでも伝えてきましたが、これらを身に付けることは、学習面、生活面、体調面にとって大変重要だということを改めて児童や保護者に啓発し、家庭と学校が協力して習慣化していかななくてはいけないことだと考えます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.5 %	28.7 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.9 %	11.8 %
「2時間以上、3時間より少ない」	8.8 %	13.8 %
「1時間以上、2時間より少ない」	29.4 %	31.5 %
「30分以上、1時間より少ない」	32.4 %	26.9 %
「30分より少ない」	14.7 %	11.4 %
「全くしない」	8.8 %	4.6 %

家庭学習については全国平均を下回っており、学習時間については習慣化できていないようです。中学生を目の前にしてまだ「1時間未満」の児童が多くおり、家庭での学習時間に個人差が見られました。「学習の手引き」や学力向上だより『ぐんぐん↑↑』をもとに家庭学習の意味や大切さを児童、保護者に啓発し、今後も継続して家庭学習が充実するような取り組み(宿題の設定、PTAとの連携)を続けていきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。内容も主体的にできるものや興味を引くようなものを取り入れます。
- 始業前(8:05~8:15)の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

##### 【ご家庭では】

- 生活面については、家庭での声かけや意識づけがとても有効です。特に睡眠時間については、日常的に気がかけて声をかけてあげてください。決まった時間に決まったことができるメリハリのある規則正しい生活と家庭学習の定着は、今の時期の児童らにとって極めて大切です。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。